

校経営計画に位置付け、実践を継続・累積することにより、教職員の意識の改革、資質の向上に資することにもなる。

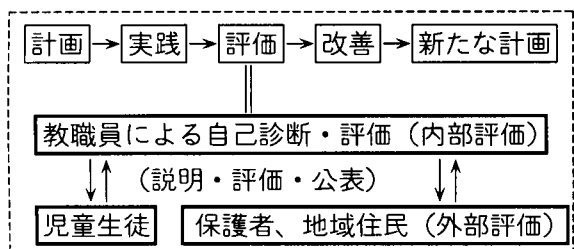
② 学校評価を通して目指す学校

- (1) 自主性・自律性の確立された学校
- (2) 責任体制の確立された学校
- (3) 地域に開かれた特色ある学校

③ 学校評価の主体

教職員の自己評価があくまでも主体であり、より総合的・客観的なものとするために、必要に応じて児童生徒や保護者、地域住民等の意見を取り入れる。

消極的な意味ではなく、積極的な意味で「必要に応じて」である。



学校が、評価結果を公表し説明責任を果たしていくことにより、家庭や地域との連携が進み、さらなる学校改善につながる。

④ 学校評価の内容

- 次の2つの側面から評価することが考えられる。
- (1) 学校経営の目標系列に関する側面から (教育活動を対象にした評価)
 - ・学校教育目標－学校教育計画－教育活動の過程の評価
 - ・教育活動の結果と成果の評価
 - (2) 学校経営の条件系列に関する側面から (運営活動を対象にした評価)
 - ・管理運営に関する評価
 - ・開かれた特色ある学校づくりの推進に関する評価等

⑤ 学校評価の前提

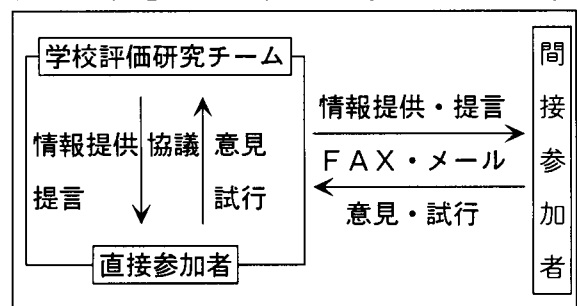
教育目標具現のために計画を立て(Plan)、実行し(Do)、その過程や結果を目標や計画に沿って評価し(Check)、さらにその結果をもとに改善する(Action)という一連のサイクル(マネジメントサイクル)の中で、教職員が主体となり、必要に応じて児童生徒や家庭と地域みんなの目で学校評価を行う。

評価の前提となるものは計画・実践であり、評価のねらいは改善のためである。ここに、学校経営におけるマネジメントサイクルの必要性がある。

2 研究の方法と組織

教育センター学校評価研究チーム4名と学校教育関係者からの研究参加希望者(23名)をもって研究を進める。

研究は理論研究にとどまらず、研究参加者との連携による開かれた実践研究とする。学校経営・運営の改善と充実に資する学校評価の在り方を探り、学校での試行を通して実践的に検証しながら、学校評価システムを構築し「学校評価の手引き」として県内の各学校に提言する。



※ご意見、ご質問をいつでも受け付けます。

福島県教育センター企画・研究グループ
 学校評価研究チーム 奥 建
 TEL 024-553-3141 (内線15)
 FAX 024-554-1588
 E-mail: oku.ken@pk02.fks.ed.jp